平成28年度ホタテガイ採苗通報（第7報）

平成28年5月25日

宮城県
気仙沼水産試験場　TEL：0226-41-0652 FAX：0226-41-0743
E-mail：kssuisi@pref.miyagi.jp
HP：http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kesenmuma-s/
Facebook：https://www.facebook.com/kesuishi
気仙沼地方振興事務所水産漁港部　TEL：0226-22-6852
水産技術総合センター　TEL：0225-24-0138
県漁協各支部青年部・研究会

県北中部全域でホタテ稚貝の付着は順調です。

なお、ホタテ浮遊幼生も全域で多い状況が続いていますが、中小型幼生は減少傾向です。

《調査結果の概要》 調査日：5月23～24日

○北部海域（唐桑～歌津）

・ 調査点の表層水温は15.0～15.7℃、10m水温は11.8～12.6℃で、先週より表層で1.6～2.8℃上昇、10m層で0.8℃上昇しました。

・ ホタテガイ浮遊幼生数（10m曳）は、只越（唐桑）で中小型（250ミクロン未満）24個（前回109個）、大型（250ミクロン以上）11個（前回14個）、気仙沼湾口部の岩井崎で中小型11個（前回31個）、大型12個（前回10個）、大島の大前見で中小型8個（前回52個）、大型6個（前回5個）、唐島で中小型0個（前回55個）、大型0個（前回20個）、蔵内（本吉）で中小型113個（前回139個）、大型30個（前回43個）となっています。

唐桑～気仙沼湾口部の大型幼生は先週同様多い状況ですが、中小型幼生は先週から減少しました（唐島では今回ホタテ浮遊幼生採取されず）。

一方、蔵内では先週同様、大型・中小型ともに多い状況が続いています。

・ また、試験採苗器（概ね一週間設置）には、只越10m層で1,371個（前回430個）、只越20m層で1,443個（前回680個）、岩井崎で1,695個（前回757個）、蔵内で4,536個（前回3,528個）となっており、先週よりさらに多くの稚貝が付着しました。

○中部海域（北上～女川）

・ ホタテガイ浮遊幼生数は十三浜（北上）で中小型2個（前回16個）、大型45個（前回4個）となっており、大型幼生が大きく増加しました。また、十三浜の試験採苗器（概ね一週間設置）には4,000個の稚貝が付着しました。

表　浮遊幼生調査結果

調査点 調査月日	水温（℃） 表層／10m	採取方法（プランクトンネット）	ホタテガイ浮遊幼生数　個体/m^3 250ミクロン未満 （小型～中型）	 250ミクロン以上 （大型）	その他（ムラサキイガイ等） 幼生数 個体/m^3	ホタテガイ付着稚貝数 個体／袋 （投入日-回収日）
北部海域（唐桑～歌津）						
只越（唐桑） 5／23	15.3/12.3	10m曳	24	11	97	1,371　(5/16-5/23)
		20m曳	16	10	141	1,443　(5/16-5/23)
岩井崎 5／23	15.6/11.8	10m曳	11	12	171	1,695　(5/16-5/23)
大前見（大島） 5／23	15.7/11.9	10m曳	8	6	112	
唐島（大島） 5／23	15.5/12.0	10m曳	0	0	27	
蔵内（本吉） 5／24	15.0/12.6	10m曳	113	30	228	4,536　(5/17-5/24)
中部海域（北上～女川）						
十三浜（北上） 5／23	－／－	10m曳	2	45	500	4,000　(5/16-5/23)

県外情報　岩手県(5/19)：稚貝付着は継続しているが、大型ラーバの出現割合が減少傾向。

次回の通報発行は5月31日頃の予定です。